

●図書紹介●

『問題解決力を培うロールプレイング・シミュレーションSIM TOWN【井角町】の授業』

井門正美著

本書は第1部ロールプレイング・シミュレーション教材「SIM TOWN【井角町】」に関する解説と第2部「SIM TOWN【井角町】」KITの2部構成である。

本書は教育実践の方法として、授業でどのような目的でどのような内容をどのような方法で取り組めばよいのかを具体的に提示している。現場ですぐに役立つのが教育研究とよく言われるが、本書のような構成と内容が求められる教育実践学の成果ではなからうか。

このように評価するのは、8年間に及ぶ実践研究の成果だからである。本書76～77頁に報告されるように、1991年度上越教育大学大学院社会系授業「教育実践場面分析演習『社会』」のグループ研究「ロールプレイング・シミュレーション教材の開発と授業実践」を発端として、1998年までに14の学校などでこの【井角町】が実践されてきた。

1994年版では、シナリオ二つ、プロフィール45人分であったものも、今回の出版にあたって、新たにシナリオ四つを加え、プロフィールを70人分に増やしている。

小学校高学年から社会人までを対象とした“地域の開発問題”にとりくむ教材であり、第2部のキット【井角町】はすぐに役立つ教材である。

井門氏は社会科教育の問題点「言語主義」「外観主義」「自省作用の希薄さ」を克服するための授業を構想して作成された教材の一つであると目的を解説する。

筑波大学教育学系谷川彰英氏は本書に序をよせて、高度情報化社会のなかで、子どもたちにどのような力をつけたらいいのか。そのような文脈でロールプ

レイング・シミュレーションを理解し、新しい問題解決の学習理論として捉えたいとしている。

本書を読んで、1990年代初めから日本の学校教育に普及してきた独特の論争方法であるディベートの流行に思いが及ぶ。こちらも一方で批判がありながら、やはりその新しい問題解決の学習理論として、たとえば、杉浦正和「新しい公民教育としてのディベート学習－探求型ディベート学習の理論と方法－」（『公民教育研究』Vol. 6）にみられるように、社会科教育に寄与しようとしている。

新しいコミュニケーション能力や批判的思考能力の育成にこれらディベート学習やロールプレイング・シミュレーションが大いに役だってほしい。

最後に、井門氏が指摘する社会科教育の問題点の一つである「自省作用の希薄さ」を克服することは、他者との距離をもって、論争できる資質をもった市民の育成という日本社会そのものの体質改善につながるものを導き出すことを本書に期待したい。

（上越教育大学 二谷貞夫）

●NSK 出版，A 5 判，203頁，2,000円（本体）